

# 令和3年度 宮崎ユニバーサル・カレッジ 学校評価（自己評価）

評価項目(重点項目)	評価指導	目標(方策・手立て)	判断基準	自己評価	総合評価	結果の考察・分析及び改善策
1. 教育活動	○教育理念・課程に沿った授業計画・実践をしているか	○「分かる授業」の実践。 ○シラバスを見直し再構築する。	◎年度当初の講義導入時に学生にシラバス・授業計画を基に授業の目標・目的・進捗計画等を伝えられたか。  ◎担当科目のシラバスの作成・見直しを年度末又は年度当初に行ったか。	令和2年度 B(3.1)	令和3年度 B(3.3)	●今年度も教務部が一括して取り纏め、冊子を作成して授業開始前に学生への配布を完了した。今年度も、導入し使用したとの意見がほぼ全数となり、教職員の意識改革としての「シラバス・指導計画事前配布」の成果はあったと判断する。今後は、本来の根本目的である「学生へ授業の目標・目的を浸透させる」ことと、毎年の効果を上げるための見直しを反映させたシラバス・指導計画のを確実に行うことを目標としたい。  A○取り纏め資料とは別に、シラバス・授業計画を講義初日の導入時に必ず配布して、目標・目的を明確にしている。 ○今年度後期から、「二輪車整備」「二輪車構造」の継承のための取り組みを行い担当者へ引き継いだ。(全てのシラバス、講義計画、資料、教材の精査と改訂を行う) B○前期開始・後期開始時に学生へシラバスを配布し、全体の流れを説明できた。○シラバスの見直しなど出来ていない所がある。 C○感染症対策により課題対応の授業もあったが、昨年より進捗がスムーズであり、余裕をもって授業が実施できている。 D○資料内に確認問題を細かく取り入れることにより、理解度を高めることができていたので次年度も継続する。 E○前年度授業実績を基に指導内容および伝え方などの変更を行っているため、今年度実績も次年度に反映させたい。 F○理解度の確認を行いながら、進捗状況の見直しを常に行うことで、欠点者を減少させることができた。 G○担任・科目担当者として配布を行い、学生への伝達も伝えることができています。 H○年度当初に見直しは行ったが、学生の理解度に合わせ毎時間改善を行っている。 I○シラバスの計画を基に授業を進め、単元ごとの要点を理解させる授業を行った J○実習授業と内容をリンクさせ、理解度の向上を図った。
	○キャリア教育の視点に立った教育方法の工夫をしているか	○「建学の精神」の具現化に徹する。	◎授業においてキャリア教育に関する指導を行っているか。またその指導の定着を図っているか。  ◎進路や将来についての学生指導・アドバイスを行っているか。また心がけているか。	令和2年度 B(3.1)		令和3年度 B(3.0)
2. 学習成果	○資格取得率向上を常に考え取り組んでいるか又貢献しているか	○過去問題の教材研究を怠らない。 ○必須取得資格の未取得学生を常に意識した指導を行う。	◎現2年生の2級模試(12月期)において、担当した科目(1年・2年次に担当していた、又は担当している)のセクション平均点は6割を超えているか。	令和元年度 C(2.3)	令和3年度 B(3.0)	●11月期3回、12月期2回実施した模擬試験をもとに4セクションをグループとサークルに分け正答率を分析した。11月期は昨年度の教員。【2級ガソリン】エンジン：73%(75%)、シャシ：64%(63%)、工学：78%(80%)、法令：92%(92%) ⇒ 全てのセクションで判定基準の6割を超えている。エンジン、工学のセクションが僅かではあるが下がっている。シャシ、法令は前年とほぼ同じ進捗を見ている。正常進捗と判断。 【2級ジーゼル】エンジン：58%(59%)、シャシ：54%(48%)、工学：60%(58%)、法令：84%(76%) ⇒ エンジン、シャシで6割を下回っている。エンジンのみ前年を下回ったが、以外は全て前年を超えている。ピッチを上げての取り組みが必要。 上記から、90%を超える習熟セクションは、2Gの法令しかない。上記の分析を踏まえ、まずは担当教員が現状の分析と学生個々の現状を把握して、その改善の方策を学科会で検討して組織で対応したい。  A○「法令」の担当者として、11月期に3回、12月期に2回の合計5回の模擬試験において、2G平均4.6(92%) [昨年度は平均4.6(92%) ]、2D平均4.2(84%) [昨年度は平均3.9(78%) ]と目標はクリアしている。また、2Dにおいては、昨年度実績を上回ったが、全ての過去問題を授業で取り組んだ学生にとって、過去問題ベースの模試でこの結果は納得できない。 B○ガソリンとジーゼルのエンジンセクションは6割を超えているが、ジーゼルは早めに開始する必要を感じた。 ○数学は理解度が浅く、繰り返し行う必要性を感じている。 C○学生の努力にて担当教科の正解数が6割に達している状況。○後期後半は、未授業分の内容をいかに理解させるかが重要。 D○1年次の授業を担当しているが、時間の経過とともに忘れてしまう部分へのフォローに今後力を入れていきたい。 E○基礎知識の徹底を再度取り組む。 F○昨年度をベースとし、各個人にあった課題や勉強方法を考え、指導に当たっている。 G○難易度の低い問題が多い傾向にあるが、間違っ学生が多い場合があるのでその問題を確認し、1年生に展開していく。
	○就職内定率向上を常に考え企業との円滑な関係構築に取り組んでいるか	○学校行事と連携した企業との密接な関係構築に努める。	◎業務の企業窓口担当者は、積極的に行動・提案して、円滑・綿密な企業対応に心がけ学生・学校の評価向上に勤めたか。  ◎業務の企業窓口担当者以外は、担当者のサポートとして、事前準備等に積極的に取り組み、学生・学校の評価向上に勤めたか。	令和2年度 B(2.6)	令和3年度 B(3.2)	●今年度より、学科業務の分担と責任者の明確化を図るため、進路担当者責任者と学生指導責任者の業務を2名の副科長が担い、担任の業務負担軽減とミスを予防するため、業務ごとの企業窓口を定め取り組んだ。 進路関連、企画関連については明確化は図れたが、学科業務における担任業務の負担は見て取れたため、業務改善には至っていないと判断する。(聞き取りも含めての判断)これは業務遂行前の事前打ち合わせの不徹底によるものであり、しっかりとコミュニケーション等の連携強化が次年度の課題。教員間の「情報発信と共有」また「業務に組織で対応する」の姿勢を保ち学生・学校の評価向上に取り組む。  A○企業との友好な関係構築に努めるだけでなく、提案や改善も要望しながら、学生・学校の評価向上に勤めている。 ○今年度は進路総括担当として、進路業務の円滑な道筋とキャリア教育の早期化に取り組んだ。「気付かせる」取り組みを行ったが牽引が必要な場面もあり、その改善が次年度の課題と考える。 B○企業の担当者と話を行う場合は、卒業生の情報や在校生の近況を会話に臨むように意識している。 ○定着指導については、十分に対応出来なかった。 C○年度当初より1年生が企業と関わる行事について、担任と連携を行い企業担当者との打ち合わせを積極的に行った。 ○企業実習巡回にて、学生の良い部分のアピールをすることができた。 D○他業務も兼ねて、企業との連携・協力をいただいているため、今後も企業の協力を得られる取り組みを行う。 ○学生の進路選択となる学校行事等において、担当者のフォロー及び企業との連絡を必要範囲で行っている。 E○企業窓口が完全に一本化できておらず、担任や話しやすい先生方に連絡がくケースも少なくない。 ○協力依頼が一つの企業に偏っている状況もあるため、科会等で積極的に発言ができるようにする。 F○企業見学、企業説明会、企業実習、企業セミナーなどの企業との接点が多い行事の場合は、必ず企業担当者へのフィードバックを行い、教育活動への理解と学生の就職に向けた後押しを行っている。

3. 学生支援	○学生と平日頃より良好な関係を築き、学習・進路・生活の支援を行なえているか	○些細なことにも「気づこうとする」精神状況を養う。	◎学科会、学年会、推薦委員会等の開催や開催要望等を行い、学生の情報共有に努め、学生がより良く改善するための指導策教検討等に対して積極的に問題提起・発言・発案を行ったか。	令和2年度 B (2.5)	●今年度より、「学科会」の平常定例実施ができて行っている。「学科会」の主旨は、情報の共有と発信、学科行事の早期検討である事を更に理解してすめ、自動車工学科の「核」となる定例会になって欲しい。 ●「学科会」を自動車工学科の「核」とするためには、学科職員が「学生が主役」であることの原点に立ち返り、入学してくる学生や保護者が「学校に求めていること（より良い職場、希望の職場への就職や確実な資格取得）」であることを再認識して即行動する組織の構築を図っていく。そのためには教職員一人ひとりが「迅速な情報の発信と共有」が根幹にあること再認識する。
	○学生への目配りを怠らず、退学防止に努めているか	○無欠席の目標を掲げ取り組む。 ○些細なことにも「気づこうとする」精神状況を養う。	◎やむを得ないとの判断（管理職判断）以外の退学者の発生は出ていないか。又、予備軍を適切に指導できているか。  ◎科目担当者として、必ず毎回授業中の情報を担任へ自ら提供したか。	令和2年度 B(2.5)	
4. 教育環境	○教室・実習場の整理整頓に心掛けているか 又 補修が必要な設備を放置せず報告したか	○「学びの場」の環境保全を教員・学生と連携して取り組む。 ○施設保全＝学生満足度と考える取り組み。	◎教材・機器備品の使用は学科教員も把握しているか、使用後の片付けや清掃は即対応しているか。	令和2年度 B (2.6)	●先ずは雑多となっている実習場の教材・機器の整理・整頓・廃棄が先決。それを行ってから、正確に管理された「教材・機器・備品リスト」を教員への配布してからのスタートと感ずる。そのリストをもとに[今回の授業で、何をどれだけ使用する]等の申告を行い、教員間で把握出来る体制を作りたい。 ●1年生に「二輪実習室」、2年生に「資格対策室」が準備できている更なる充実を目指す。
	○機器・備品の適切な取り扱いに心掛けたか 又 積極的に必要な機器・設備の要望を行ったか	○コスト意識をしっかりと持った業務を行う。 ○学生満足度を意識して業務を遂行する。	◎学科の予算要求に対して「わかる授業」のための教材の見直しを図り、必要と思われる機器購入等の要望を行ったか。	令和3年度 B (3.0)	
				令和2年度 B (2.6)	●毎年10月には学科の「今年度の現状」「次年度の構想」「次年度の要望[人的・物的]」を明確にして、学科教職員で共有するよう取り組んでいきたい。それが全ての基本となる。 ●実習場の機械・機器・工具の点検・改修・補充を行った。教育環境の維持に繋がっているが、管理徹底とはいえない。 ○学生の夏季休暇中に管理時間を設定する。(次年度管理徹底する。)
				令和3年度 B (3.0)	AO科目担当者としての、必要な機器・教材については常に要望を行っている。しかし次年度の要望は前年度の10月には決定しないと授業計画は立てられない。そこからの意識改革が急務。 BO特定整備に関する機器を購入し2年生に対し授業を行う事が出来た。 ○ジーゼルエンジンなど高価な教材に対し計画的に購入していきたい。 CO備品については時間をつくってでも補修を行う必要がある。 ○必要な教材の申し出を、強く要望していくことが学生の為であることを認識して発案をする。 DO機器・備品の取り扱いには注意し、学生への注意喚起を行っている。 ○購入機器の必要性や費用対効果の確認などに注意を払っている。 EO新たに使用する機器備品については、前準備を行っている。 FO昨年引き続き実習で使用しているジーゼル・エンジン4機の購入要望を行った。 ○次年度よりダイハツ奇贈のガソリン・エンジンを実習で使用する。

5. 学生募集	○学生募集活動を積極的に行っているか	○募集定員を確保できるように全教職員で取り組む。	◎担当地区の募集目標を達成できたか。	令和2年度 B (2.6)	<p>○現在、定員目標に対して68%の充足率（34名の入学手続き）【担当教員内訳】 充足率200%：1名、充足率75%：1名、充足率71%：1名、充足率56%：1名、充足率50%：1名、充足率 0%：2名、の状況であり、前年比85、0%と苦戦している。</p> <p>今年度の特徴は、NGH：14名、佐土原：3名、日大：2名、鷗翔：2名、と複数名出願頂けた6校から4校に減少した。(6名減)しかし、2年以上の欠隔期間を明けて5校から6名出願頂けた。また現在2名(昨年度4名)である過年度生の増加を目指す。</p> <p>○担当地区・担当校の特性や特色の分析はまだ不足していると感じる。</p> <p>AO募集活動は積極的に行っているが、あと1名不足して目標達成に至っていない。オリジナル資料の準備・発案を行い、毎回の訪問のポイントとしている。</p> <p>BOオープンキャンパスに参加した生徒に対し、作業風景などの写真を印刷し該当校へ持参できた。</p> <p>○目標の人員を確保することが出来なかった。</p> <p>CO昨年度同様、考えながら積極的な活動に心掛けた。</p> <p>○目標数値が達成できていなければ意味がない。今一度足りないものを考えることが必要である。</p> <p>DO訪問・面談により。願書出願に向けた協力・相談をいただける学校が増えてきているため、さらなる高校の先生方とのつながりを強化して行く。</p> <p>○自身の設定した目標には、到達できていないが追加で募集強化を行っている学校からの応募も出ている。</p> <p>EO担当している4校について1名も達成できていない。○資料は企画広報部に任せきりになっている。</p> <p>FO募集目標数値1に対し2名が入学につながった。○希望者に合わせた資料を作成しオープンキャンパス後の訪問を行った。</p>
	○学生募集活動において、教育活動成果を適切に対象校担当者に伝えているか	○高校訪問を常に意識して情報発信を心がける。	◎担当の重点校には、毎回面談頂けるMUCファンの先生がいるか。	令和2年度 B (2.8)	
		◎決められた情報提供に終わらず、高校毎の特色を考慮しプラスαとなる情報提供を行ったか。	令和3年度 B (3.0)	令和3年度 B (3.0)	<p>AO担当地区も2年目となり、更に以前の担当校も加わり、効果を考えた効率の良い訪問・情報提供が行えたと感じる。</p> <p>○高校ごとに持参資料の作成も行った。</p> <p>BO自動車整備士を養成する学校であると認識して頂いた。○学校毎の特色を活かした資料などは作成出来なかった。</p> <p>CO本校の特色や活動は資料等を活用してアピールできている。</p> <p>○主事を含む進路指導室の先生方全員へ向けて声をかけ、打ち解けられる状況を構築中である。</p> <p>DO学校行事や方針などを伝え、本校への信頼をいただけるよう取り組んでいる。</p> <p>○高校側より相談や情報提供をさらにいただけるよう取り組む。</p> <p>EO重点校については関係性をしっかりと築くことができた。○事前調査が足りずプラスαの情報提供が行えていない。</p> <p>FO毎回面談頂ける進路の先生がいるが、話を聞いてもらえるだけで興味を示していただけていない。</p>

※授業評価は4段階評価です。よって最高評価は4.00です。

■ 評価の基準は、 A(4)：期待以上、 B(3)：ほぼ期待通り、 C(2)：やや期待を下回る、 D(1)：改善を要する